

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24320098

研究課題名(和文)「生活のための日本語」の授業実践に関する研究：研修システムの構築をめざして

研究課題名(英文) Inside the classrooms of "the Japanese language for living in Japan"

研究代表者

金田 智子 (Kaneda, Tomoko)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：50304457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円

研究成果の概要(和文)：「生活のための日本語」授業の実態を知るため、国内5地域、11団体、22教室、98授業を撮影し、複数の観点・手法で分析を行った。観点には物的リソースの占有・共有、教師のフィードバック等があり、教師・学習者の発話の量的及び質的偏り、制度的な発話展開等の特徴が明らかとなった。授業の実態を端的に示し議論しやすくするためには、漫画が適当という結論に至った。分析結果をもとに、漫画・タスク・解説からなる『研修用マンガ教材日本語教室をのぞいてみると』を作成した。

研究成果の概要(英文)：In order to explore the reality of Japanese language classrooms run by the municipal organizations or local volunteer groups for the foreign residents, the researchers videotaped 98 lessons at the 11 different sites. Either transcriptions or video images were used for analyses and the foci were occupied/sharing materials, feedback, the amount and types of teacher talk, etc. The different types of analyses revealed that there are both qualitative and quantitative imbalance of interactions between teachers and learners or among learners. We summarized some findings as episodes into a booklet for teachers. This book consists of cartoons, tasks and brief explanatory notes.

研究分野：日本語教育

キーワード：生活のための日本語 教室研究 授業分析手法 研修 地域日本語教育 授業分析 研修用教材 生活者としての外国人

1. 研究開始当初の背景

(1) 社会的背景

日本に暮らす外国人が増加(2010年12月末時点で、総人口の約1.67%)し続ける中、2008年に定住型外国人を対象に行った調査(課題番号:20320074、研究代表者:金田智子)によれば、日本語で「話すことが全くできない」及び「自己紹介や簡単な表現を使い話せる」とどまる人が、回答者全体の45.8%を占めていた。そして、彼らの多くは地域の各種団体によって開催される日本語教室を利用しているが、十分な成果をあげられないまま、何年も日本に暮らしている場合が少なくないという実態があった。

(2) 研究上の課題

生活者としての外国人に対する日本語教育の「内容」に関する研究(「生活のための日本語」の研究)は前述の調査等によって行われていたが、「方法」に関する研究は事例研究にとどまっていた。「生活のための日本語」をいかに教えるか、という点に関して、実際のデータに基づく研究は行われておらず、抽象的な議論しかできていなかったのである。「生活のための日本語」の教室活動を客観的な評価の対象とし、教育改善のための議論を可能にするためには、授業を何らかの形でデータ化し、その実態を明らかにすることが課題であった。同時に、教室活動の多様性や重層性を把握するためには、既存の授業分析手法では不十分であることが予想され、複数の観点に対応できる分析手法を新たに検討する必要もあった。

2. 研究の目的

「生活のための日本語」授業の「方法」に焦点化し、その実態を明らかにすること、さらには、多様な授業のありようを捉えるための授業分析手法を新たに開発することにより、「生活のための日本語」の授業についての議論を可能とする基盤を作ることを目指す。さらに、その分析結果及び授業分析手法を「生活のための日本語」の指導力を向上させるための研修ツールとして提案する。

3. 研究の方法

(1) 国際交流協会等が運営する日本語教室の授業をビデオ撮影し、その映像及び文字化資料を複数の観点及び授業分析手法によって分析する。分析手法については、試行結果を踏まえ、研究者間の検討に基づいて、改良を加える。分析結果をもとに、「生活のための日本語」授業の実態を把握し、特徴及び課題を捉える。

(2) 授業のデータ分析結果や映像データを用い、「生活のための日本語」指導者に対する研修(ワークショップ)を実施し、その結果を踏まえ、研修方法の検討を行う。

4. 研究成果

(1)国内5地域、11団体、22教室において、

98の授業を撮影した。1対1、少人数グループ、一斉授業など異なる形態の授業である。

分析の観点としては、教師と学習者による物的リソースの占有・共有、教師のフィードバック、教師と学習者の発話の量と質、教師による質問のタイプ等であった。映像データを用いる場合と文字化データを用いる場合とがあった。既存の分析手法で用いたのはFOCUS、DQ/RQである。これまで、これだけの量の授業データを分析した研究はなく、また、複数の視点・観点・手法によって同一データを分析するといった研究は行われていない。

分析により、教師・学習者の発話の量的偏り、質的偏り、教師のフィードバックの問題点、制度的な発話展開等の特徴が浮かび上がった。また、学習者の発話を促す教師の発話の長さや内容についての傾向も明らかとなった。これらはいずれも、授業形態によらず共通してみられる特徴であると同時に、広く日本語教育全体の課題となりうるものであった。

授業データに基づく研修を試行的に実施し、その成果を検討した結果、授業の特徴を端的に捉え、その事象について議論し、自身の実践に結び付けるためには、漫画を用いるのが適当という結論に至った。分析によって明らかとなった特徴をエピソード化し、漫画・タスク・解説からなる『研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると』を作成した。今後、この教材を「生活のための日本語」の指導者向けの研修等で使用し、日本語教師の思考過程に与える影響について探究しつつ、教師の継続的かつ自律的な成長を目指した研修方法を検討する計画である(基盤研究(C)、課題番号17K02862、研究期間:2017~2019年度、研究代表者:金田智子)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計13件)

森篤嗣、小学校における話し合い活動の言語計量分析、『シリーズ話し合い学をつくる1 市民参加の話し合いを考える』、査読無、2017、119-135

森篤嗣、大学生の模擬授業における発話の言語計量的特徴と復唱、帝塚山大学現代生活学部紀要、査読無、12巻、2016、85-94

中上亜樹、在住外国人の日本社会との関わりに関する一考察 - 浜松市在住の外国人へのインタビューを基に -、アジア・日本研究センターシンポジウム 日本語教育から見た国際関係 報告書2014、査読無、0巻、2015、75-80

宇佐美洋、母語話者・非母語話者間の対話における他者への配慮とその評価、第21回プリンストン日本語教育フォーラム プロシーディングス、査読有、0巻、2014、

森篤嗣、教室内コミュニケーションにおける小学校教師の話法 - 意識的・無意識的な話法の記述、日本語 / 日本語教育研究、査読有、4巻、2013、181-197

金田智子、「生活者」としての外国人に対する日本語教育の確立をめざして、国語研プロジェクトレビュー、査読無、3巻、2013、141-151

金田智子、国内日本語教育における課題 - 「生活者」に焦点を当てて -、学習院大学人文科学研究所報、査読無、2012年度版、2013、81-84

金田智子、在住外国人に対する「言語学習」の重要性、自治体国際フォーラム、査読無、272巻、2012、2-5

森篤嗣、内海由美子、山形県における定住アジア女性の日本語使用：首都圏・全国との比較から特性をみる、国立国語研究所論集、査読有、4巻、2012、37-48

佐々木倫子、バイリンガル教師の養成に向けて - 南米在住日本語教師の場合 -、桜美林言語教育研究、査読有、3巻、2013、63-73

[学会発表](計48件)

金田智子、文野峯子、「データに基づく教師研修」の提案 地域日本語教室の実態を題材に、日本語教育国際研究大会 / Bali ICJLE 2016 (国際学会)、2016年9月9日～2016年9月10日、Bali, Indonesia

杜長俊、授業内容に関連付けた学習者による私事語り、日本語教育国際研究大会 / Bali ICJLE 2016 (国際学会)、2016年9月9日～2016年9月10日、Bali, Indonesia

岩田一成、森篤嗣、日本語教育に対応した形態素解析ツールの開発、日本語教育国際研究大会 / Bali ICJLE 2016 (国際学会)、2016年9月9日～2016年9月10日、Bali, Indonesia

宇佐美洋、対話型授業を行う、ある支援者の学習観 何を目標して対話を行うのか、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

文野峯子、期待と異なる返答に対する教師のフィードバック 伝達的手段と方法、シンポジウム「授業を見て考える -

地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

文野峯子 他、可視化してみよう！私の教育観の形成と変容、『「評価」を持って街に出よう』出版記念シンポジウム、2016年1月10日、東京大学 (東京都目黒区)

森篤嗣、授業形式と日本人ボランティアの発話量の関係、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

中上亜樹、教室で行われているインターアクション - 学習者の気づきに注目して -、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

金田智子、「生活のための日本語」授業を分析する意義、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

佐々木倫子、地域日本語教室の変化と不変 あれから30年、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに - (基調講演)、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

杜長俊、授業内容に関連付けた学習者による私事語り - 生活者としての外国人のための日本語教室の事例分析 -、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

金田智子、学習者と教師のやりとり - 自己研修のためのヒント -、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

須賀和香子、自発的発話を促す要因に関する一考察 - あるクラスの授業分析から -、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

茂木真理、授業分析を基に構成したワークショップの実践 - 受講者の立場からの報告 -、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」、2015年9月2日、学習院大学 (東京都豊島区)

岩田一成、ボランティア養成講座ワークショップ用ネタ集：教室データ分析を基

に議論内容を考える、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」, 2015年9月2日、学習院大学(東京都豊島区)

吉田聖子、ボランティア養成講座ワークショップ用ネタ集: 教室データ分析を基に実践現場を考える、シンポジウム「授業を見て考える - 地域の日本語教室をテーマに -」, 2015年9月2日、学習院大学(東京都豊島区)

依山雄司、山口昌也、金田智子、森篤嗣、授業を評価する: FishWatcher による評価の集約と可視化、「『評価』を持って街に出よう」出版記念シンポジウム、2016年1月10日、東京大学(東京都目黒区)

金田智子、日本語教師の自己研修、異文化コミュニケーションと日本語教育国際シンポジウム(招待講演)(国際学会)、2015年8月29日~2015年8月30日、黒竜江大学(中国黒竜江省)

文野峯子、期待と異なる返答に対する教師のフィードバック - 伝達手段に注目して、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学習院大学(東京都豊島区)

岩田一成、疑問文: 内容重視なのか形式重視なのか、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学習院大学(東京都豊島区)

⑳ 須賀和香子、授業の中における学習者の自発的な発言に関する考察 ある初級授業クラスの授業を対象として -、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学習院大学(東京都豊島区)

㉑ 佐々木倫子、物的リソースを手がかりとする授業改善提案、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学習院大学(東京都豊島区)

㉒ 森篤嗣、授業形式と日本人ボランティアの発話量の関係、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学習院大学(東京都豊島区)

㉓ 金田智子、「生活のための日本語」授業を探る 研究紀要、公開研究会「『生活のための日本語』授業 - 映像データ分析からわかること -」, 2015年2月15日、学

習院大学(東京都豊島区)

㉔ 金田智子、「生活のための日本語」授業の実際 教師と学習者のやりとりに注目して -、「第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム - 変化する国際社会における課題と可能性」, 2014年11月15日~2014年11月16日、香港大学專業進修学院(中国香港)

㉕ 金田智子、中上亜樹、須賀和香子、「生活のための日本語」授業の探求 研修システムの構築をめざして、異文化間教育学会、2014年6月7日~2014年6月8日、同志社女子大学(京都市上京区)

㉖ 岩田一成、地域日本語教育における対話型活動のすすめ、群馬県立女子大学 地域日本語教育センター 講演会(招待講演)、2015年2月28日、群馬県立女子大学

㉗ 金田智子、中上亜樹、須賀和香子、「生活のための日本語」授業の研究 研修システムの構築をめざして、2014年度異文化間教育学会、2014年6月7日~2014年6月8日、同志社女子大学(京都市上京区)

㉘ 文野峯子、伝え合う力を伸ばす教室活動を考える、ことばの教育法ワークショップ(招待講演)、2013年8月21日、人間環境大学(愛知県岡崎市)

㉙ 金田智子、「生活のための日本語」研究 その軌跡と今後の発展、国立国語研究所「多文化共生社会における日本語教育研究」研究発表会、2013年1月6日、国立国語研究所(東京都立川市)

㉚ 須賀和香子、中上亜樹、黒瀬桂子、金田智子、「生活のための日本語」に関する研究の成果公表に関して - データを現場に生かすために -、国立国語研究所「多文化共生における日本語教育研究」プロジェクト公開研究発表会、2013年1月6日、国立国語研究所(東京都立川市)

㉛ 森篤嗣、教室内コミュニケーションにおける小学校教師の話法 意識的・無意識的な話法、日本語/日本語教育研究会、2012年9月30日、学習院女子大学(東京都新宿区)

㉜ 金田智子、「文型積み上げ式」か「場面中心・活動中心」か、宇都宮市国際交流協会主催「文化庁日本語教育実践プログラム 平成24年度日本語ボランティア支援者能力向上研」、2012年7月28日、とちぎ国際交流センター(栃木県宇都宮市)

〔図書〕(計7件)

金田智子編、研修用マンガ教材 日本語教室をのぞいてみると、学習院大学金田智子研究室発行(非売品) 2017、53ページ。

金田智子、学習者と教師のやりとりから - 自己研修型教師をめざして - (徐敏民他編『日語教学研究』) 外語教学与研究出版社(中華人民共和国) 2016、528-554

宇佐美洋編、「評価」を持って街に出よう - 「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて、くろしお出版、2016、359

金田智子、教師の成長(冷麗敏編『教師、課堂、学生与日語教育』) 高等教育出版社(中華人民共和国) 2015、3-20

森篤嗣、授業を変えるコトバとワザ、くろしお出版、2013、192

〔その他〕

ホームページ

「探求しよう『日本語教室』」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金田 智子 (KANEDA, Tomoko)
学習院大学・文学部・教授
研究者番号: 50304457

(2) 研究分担者

文野 峯子 (BUNNO, Mineko)
人間環境大学・人間環境学部・名誉教授
研究者番号: 10310608

佐々木 倫子 (SASAKI, Michiko)
桜美林大学・言語学系・名誉教授
研究者番号: 80178665

森 篤嗣 (MORI, Atsushi)
帝塚山大学・現代生活学部・教授
研究者番号: 30407209

岩田 一成 (IWATA, Kazunari)
聖心女子大学・文学部・准教授
研究者番号: 70509067

宇佐美 洋 (USAMI, You)
東京大学・総合文化研究科・准教授
研究者番号: 40293245

中上 亜樹 (NAKAUE, Aki)
国土館大学・21世紀アジア学部・准教授
研究者番号: 90581322

須賀 和香子 (SUGA, Wakako)
大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国立国語研究所・日本語教育研究情報センター・プロジェクト非常勤研究員
研究者番号: 50642279

(4) 研究協力者

茂木 真理 (MOTEGI, Mari)
にほんごの会くれよん

吉田 聖子 (YOSHIDA, Seiko)
あけぼの会日本語教室

黒瀬 桂子 (KUROSE, Keiko)
広島市立大学・非常勤講師

杜 長俊 (DU, Changjiun)
学習院大学・国際研究教育機構・PD 研究員